

## 「癒しの木製品開発」(オンリーワン共同研究)

寺門 秀人 本庄 恵美  
三俣 寛 高橋 麻子  
馬場先 貞之

### 1. はじめに

県デザインセンターの参与である、トライポッド・デザイン株式会社代表、また日本のユニバーサルデザインの第一人者である中川聡氏より、「日常生活に癒しを提供するための、木材を使った新しい照明器具等を茨城県の企業や行政を通し考えていきたい。」という提案をいただいた。

一方、当センターにおいては、県内の木材ツキ板(シート状の木材)を製造している企業から自社製品の用途拡大について相談を受けていた経緯があった。また県内には全国的にもトップクラスの技術を持った木工職人が多くいるということから、照明の傘にツキ板、筐体に木工技術という、中川氏の考えていた製品開発に合致する条件が揃っていたため、当センターが企画立案し、本事業を行うことにした。

### 2. 参加企業

北三株式会社茨城工場(竜ヶ崎)/ツキ板製造  
馬場先木工所(ひたちなか市)/家具建具製造

### 3. 目標

ユニバーサルデザインの導入及びツキ板利用、日本の伝統技術である組子技術の応用による木材の色調を生かした癒しの製品等を開発する。

地域ネットワークを利用したこだわりの商品開発を行いブランド作りを行う。

### 4. 開発商品について

商品コンセプトをノスタルジアを感じさせるクラフト品とし、ターゲットを介護施設や一般家庭とした。また、広範囲のユーザー層をカバーするものではなく、ターゲット中のある特定の人々といった微小マーケットを狙った商品とした。

### 5. デザインについて

商品は日本の伝統的な要素と、現代的な要素を併せ持ったモノを目指す、ということから下記の要素を商品に盛り込むこととした。

a, 伝統的要素 - 回り灯籠, 組子技術。

b, 現代的要素 - 薄い木材, 木材を透かす, 光と影の表現方法。

### 6. 技術的課題

a, ツキ板の光透過性の向上について

ツキ板の透過率を向上させるため、ツキ板を極薄加工する検討を行った結果、0.15mmの裏打ちツキ板製品が完成した。照明の傘への利用のほかに、その柔らかさ、軽さなどの質感等の物性から、紙製品に限りなく近似した仕上がりである。

b, 照明器具の安全性及び回転システムについて

一般的白熱球による照明内温度上昇について、ワット数また照明カバーのサイズについて実験し、適正な組み合わせを調べた。また回転させる傘に重量があり、白熱球による空気の上昇気流が利用できないため、モーター動力による回転システムを検討し製作を行った。

### 7. 結果

a, ツキ板製品

極薄加工により、限りなく紙に近い製品にすることが出来たため、普段木材で遊んだり学んだりする機会の少ない一般の方々へ、曲げたり折ったり、五感で木材と触れ合う機会を提供できると考え、木材クラフト紙(商品名「木地紙」)として製品化することになった。

b, 照明器具

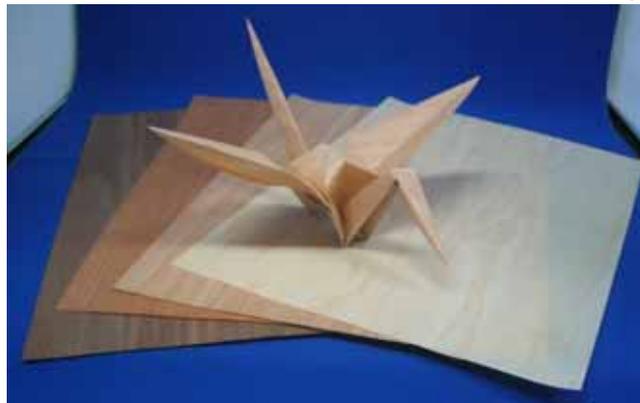
外傘及び内傘は自由尚且つ簡単に交換でき、様々な照明パターンを演出できるようにした。また内傘外傘それぞれ単体で使用することもできる仕様とした。

室内の天井, 壁, 床をスクリーンに見立て、光と影を映しだす照明であったり、外カバー(ツキ板)を付けることにより、そのカバーがスクリーンとなる照明、また両者を組み合わせた照明にもなるといった、多様な使い方ができる照明(商品名「癒灯~YUAKARI」)とした。

### 8. 最後に

本2製品はまだ幾つか改良の余地が残されていると思われるため、今後もユーザーの意見等を取り入れながら改良に努めていきます。

現在日本人の中に忘れられかけている郷愁(ノスタルジア)や懐古といった心を再び呼び戻させ、ユーザーの心身を癒していただけたら幸いです。



「木地紙」



「癒灯~YUAKARI」/1パターン例